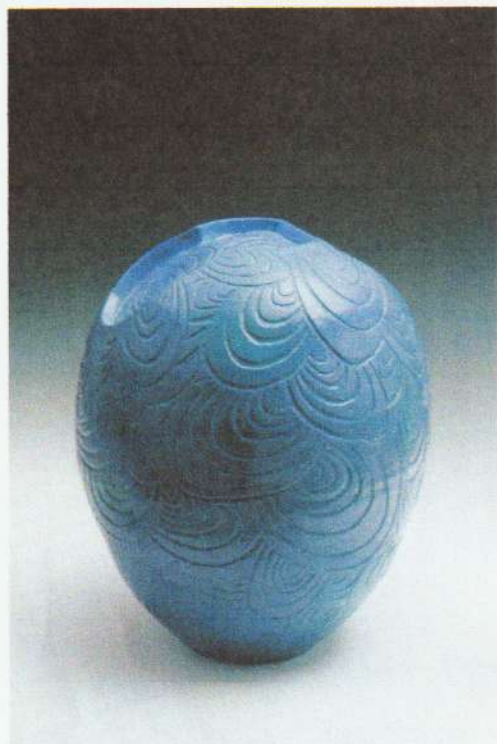


# 平成文化奉納芸術絵巻

日光東照宮四〇〇年式年大祭特別奉納行事「天下泰平祈願日本芸術奉納美術展覧会」真秀  
実作奉納美術三十一作紹介特集



# 平成文化奉納芸術絵巻



日光東照宮 400 年式年大祭奉納作品：「波紋」

工芸 荒木 光子 アラキ ミツコ

神奈川県在住

師：泉幹男／平野教道／井野衛

所属：新日本美術協会審査委員／全陶展会員

経歴：新日本美術協会東京都議会議長賞、大賞、会長賞、他多数／A.M.S.C. パジエ・デ・ロス・スエニョス財団賞

非常に斬新なデザインに驚きを感じる。この「波紋」は陶芸によるオブジェであり、水龍の鱗を思わせるような素地線彫りの波模様は「陽明門の龍」の鱗のようにも見え、高温で焼かれる焼き物にはそのエネルギーが残存し、龍の生命を帯びているかのように思える。

文◎代表理事



日光東照宮 400 年式年大祭奉納作品：「花紅柳緑」

工芸 片山 寛美 カタヤマ ヒロミ

愛媛県在住

所属：日本生涯学習協議会本部専任講師ワイヤーレースジュエリー

経歴：ビーズアートジャパン大賞、佳作／トリコロール芸術の翼奨励賞／日伊教育ノーブル芸術金賞／愛と平和の芸術家大賞

ジュエリー・アートを手掛ける片山寛美氏の一作は、今秋めでたく日光東照宮に奉納となった。数多くの工芸の中でも、この種のアートは異彩を放ち脚光を浴びている。その中でも注目を集める氏の作品の一つ「花紅柳緑」。全体的に花をモチーフとした本作が人々をまほろばに導くことを切望する。

文◎代表理事



## 工芸家 片山 寛美

Hiromi KATAYAMA

## 日光東照宮禰宜 湯澤 一郎

Ichiro YUZAWA

湯澤 一郎禰宜（以後…湯澤） 本日はよろしくお願い致します。早速ですがこの「花紅柳緑」（六三頁左図版）について解説頂けますか。

片山 寛美氏（以後…片山） はい、よろしくお願い致します。

この作品は、純粋に春の美しさの表現に留意して制作しました。春の花々やそこに集まってくる蝶々など、春の景色を中心に七宝で焼いて、それをワイヤーワーク（※針金を切ったり折り曲げたりして細工する技法。一八世紀頃チェコで開発される。）で象ったお花で整えたものなんです。

ですから色使いについても、春をイメージして赤、緑、黄といった

た華やかな色で全体をまとめた作品です。

湯澤 今回は華やかさを春という季節で表現されたということですが、東照宮にはたくさん草花の彫刻や絵画があります。

その中でも唐門両脇に東西透塀という国宝の鮮やかな塀が巡らされていますが、この中に亀甲花菱がありす。ちょうど水鳥がいる上の長押表面の亀甲花菱紋は金箔地に密陀彩色で描き、胴羽目は花狭間格子を設け、格子は金箔地、透彫の花弁の表面は緑青、内側を朱塗としているため、そのコントラストは大変優美です。

その見事な意匠は時間帯や光の射し方によって見える色に変化し、花がずつと繋がったように見えて春めいた様子が窺えます。

この作品も非常に細かな花をちりばめていますし、瞬間的にこの透塀の亀甲花菱紋が最も相応しいと思えばせて頂きました。

片山 私も恐れ多いですが彩色の感じが似ていると感じました。すごく嬉しいです。そんなことを意識して作ったわけではないんですが、こうして見比べてみて改めてそう思います。

まだ東照宮はあまりゆっくり見たいのですが、是非実物を拝見したいと思います。

湯澤 是非そうして下さい。  
東照宮には多種多様の彫刻、絵

画、デザインなどがありますが、やはりその根底は平和、天下泰平の表現という一言に尽きます。

様々な動植物、想像の霊獣、霊鳥などすべてが共存することは、穏やかな平和を表しています。その中でも春を感じるこの場所は、徳川家康公が齎してくれた平和な世、理想郷を最も象徴している場所だと思っています。

片山 そうですね。このような緩やかな春の風景や流れがずっと続くと良いと思う事があります。

私も春は一番穏やかな季節という感じで、四季の中で最も平和な時間だと思います。

湯澤 ところで先生の作品は七宝焼とワイヤーワークを融合しておられますが、きっかけのようなもの、この表現に至った経緯を教えてくださいませんか？

片山 当時、七宝焼そのものはまだ手掛けたことがなかったのですが、娘の絵画の先生の個展の時に、絵と一緒に先生が制作された七宝焼も展示されていて、美術品の七宝を初めて手に取って触れてみたんです。

その時に「七宝焼は私が制作しているワイヤー作品と組み合わせるともっと面白いものが出来るのではないか」と思い付いたんです。

これまではアクセサリーでも七宝焼だけで作られているものが多かったのですが、新しい作品を生み出



湯澤 では、今まで以上に色々な表現が浮かんでイメージが広がっ

片山 とても難しいんですが、七宝というのはとにかく広がりがあ  
るので、すごく楽しいですね。  
色だけで表すことも出来ます  
し、有線七宝といって線を作っ  
て、この作品で例えると花と  
か蝶々になります。僅かなス  
ペースの中で様々なものを形成出  
来ますから、飽きがこないんです。  
無限に作品の中が広がっていくイ  
メージで。

湯澤 愚問かと存じますが、それ  
を作ってみて如何でしたか。

片山 そうですね。

新しい表現を習得することは素  
晴らしいことですね。それではこ  
の「シャルマン」(六二頁図版)  
という作品についてお願いしま  
す。

片山 これはまだ七宝を使い始め  
る以前で、ビーズステッチという  
針と糸を通す技法とワイヤーを組  
み合わせたものです。

全体的に鳥の翼を表現しまし  
た。翼を広げ、様々な人の思いを  
乗せて羽ばたいている様子をイ  
メージしました。

人の思いは様々あり複雑ですか  
ら、何種類もの草木がある森も同  
時に表現したつもりです。

湯澤 比較文化財につきまして  
は、翼を広げた鳥のイメージから  
鶴の彫刻(六二頁写真)を選びま  
した。東照宮の鳥の彫刻は、孔雀、  
金鶏、銀鶏、野鳥、水鳥など数多  
くありますが、鶴は極めて別格の  
存在になります。

昔から鶴は神様の乗り物という  
信仰もあり、色々な願いを神様に  
届けるものになります。先生は「翼  
を広げ、様々な人の思いを乗せて  
羽ばたいている」とおっしゃいま  
したが、神様として祀られている  
徳川家康公もまたこの鶴に託され  
た様々な想いを受け止めたのでは  
ないでしょうか。

鶴の近くに草花の彫刻を置いて  
いるのは、今でもご霊前などに花  
を手向け、想いを託す行為と類似



しており、同様の解釈になるよう  
な気がします。

片山 本当に驚きました。何かこ  
の鶴のイメージが私の想いと重な  
るものがあって。

湯澤 先生が制作されるのはジュ  
エリーなので人が身に着けるもの  
になります。それを身に着けた人  
たちへ想いを託すという意味で制  
作されたりするのでしょうか。

片山 そうですね。身に着けた時  
にその人が輝くような作品でなけ  
ればならないと思います。

暗いイメージではなく、着けた  
時に華やかな気持ちになれるとい  
うか、希望が感じられる作品を作  
りたいと思っています。そしてお  
洒落に身に着けるだけではなく、  
眺めるだけでも癒される作品であ  
りたいと思います。

なんだか欲張りな感じですね。

湯澤 身に着けた時には「華やか  
さ」、鑑賞した時には「癒し」を  
感じさせるものを制作していき  
たいということですね。



片山 そうです。もう一つ欲を言  
わせてもらいますが、自分の想い  
を宿すように毎回制作しています  
から、着けた方にも見た方にもそ  
の想いが伝われば良いなという気  
持ちもあります。

湯澤 今回対談を通じて、やはり  
先生の作品は東照宮の建造物と共  
通するものがあると感じました。  
ここは偉大な功績を上げられた  
徳川家康公が祀られています。極  
端に言えば小さい祠のような社  
でも大勢の方が積極的に家康公を  
お参りしたと思います。

しかしこれだけ絢爛豪華な装飾  
を施した所以は、家康公の業績を  
讃えるためだからです。ですから  
この装飾は、家康公という魂を崇  
敬の念で祀った最高の表現手段だ  
と思うんです。

ジュエリーは自分を一層魅力的  
に見せるために身に着けます。ま  
た、東照宮は家康公の偉大さを絢  
爛豪華な装飾で表現しています。  
何れも、装飾する対象をより豊  
かに表現するという意味で類似し  
ていると思います。

「シャルマン」



「シャルマン」比較文化財：「坂下門 鶴」



片山 恐れ多いことですが、この対談を機会に脈々と何百年も続いた東照宮の彫刻群と比較され、自分の作品がその歴史に寄り添えたことは、私にとって素晴らしい体験です。

更に、壮大な歴史に対して短い寿命の人間である私が、何百年も続いた文化財と接点が少しでもあるのなら大変ありがたいことですし、これからの創作への活力として役立てたいと考えています。

湯澤 先生の作品を通して徳川家康公の平和思想を改めて見つめなおし、言葉で表現することが出来たような気がします。

先生のこれからの創作にお役立て頂けるといふ今のお言葉は、東照宮としては大変光栄なことです。

本日はありがとうございます。

片山 いえ、かえって恐縮致します。私もこれからは少しでも平和に繋がるものを作っていけたら良いと感じました。

本日はありがとうございます。

二〇一六年七月二四日取材



「花紅柳緑」

「花紅柳緑」比較文化財：「東透堀 亀甲花菱紋」



### 工芸 片山 寛美

Craft Hiromi KATAYAMA (Ms.)

愛媛県在住

所属：楽習フォーラム本部専任講師ワイヤーレースジュエリー

経歴：ビーズアートジャパン大賞、佳作／トリコロール芸術の翼奨励賞／日伊教育ノーブル芸術金賞／愛と平和の芸術家大賞／日本シエナ芸術協会創立メンバー（WAC）／国際芸術親善大使認定